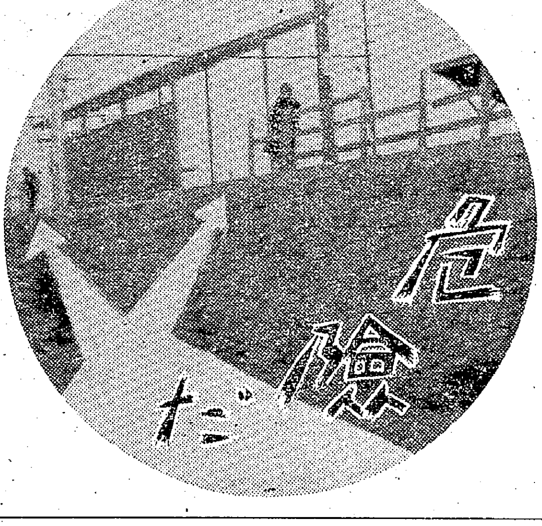
修繕されぬ手すり
西原駅で子供が転落

通勤列車西原駅は四山鉱通勤者や県境方面に買物する家族の人たちでごつた返すほど利用者があり、おまけに駅を下りるとすぐに県境の繁華街と、バスの利便がよいのなど加えて、利用者は増える一方である。

ホームの待合所はさいきん鉄柱づくりの丈夫なのができて利用者の間で喜ばれているが、この待合所とくらべて「手すり」の貧弱なのが見立つてきた。おまけにこの手すり、昨年の台風に見舞われて一部が吹きとばされており、そのまま修ぜんもされずに放置されているが、最近ついにこのため子供が転落して怪我をするという危い事故がおきた。これからさき陽気がよくなるのに引かえて利用者は増える一方だし一度あることは二度も三度もあり、主婦や子供、老人のためにも修理方を早急に行うように要望されている。これにたいして緑ガ丘から利用するという主婦は



早く修繕たのむ

私はここが一番便利がよいのでいつも利用していますが、手すりが台風で飛んだときも、すぐ修理して貰うだろうと思つていましたのでそう気にもとめずにおりました。ところがこの前ここから子供さんが落ちて怪我をされたと聞き崩れた手すりをまだそのままにしているのをみて、腹が立ちます。混雑するときは、ホーム一杯になつてみんな先を争つて急ぐために危くてしようがありません。一日も早く直していただくようにお願いします。

またある組合員は

とにかく早く修繕してもらわんなら危なくてできません。子供やとしよりは人が多いときは力がないので端え端えと押されていくありさまですし、暗いときは私たちでも用心しています。それに時間をいそぐときはここから飛び下りていく人もいるようですし、こういうためにも早くたのみます。

生革運動を発表
市民に与えた深い感銘

荒尾市教育委員会では、社会教育の一端として新生活運動を進めているが、去る二十七日日曜、市内各種団体の新生活運動の報告会を市公会堂で午前十時より開催したこの中で三鉱労組関係から緑ガ丘かえで町、西川重生氏が生活革命運動における従来までの経験を「新生活と因習の打破」という課題で報告し多大の反響を与えた。当日午前十時頃まで聴取者百名程度が集まり、中央区より「新生活と青少年」、月田区が「新生活と環境衛生」、樺青年団が「雄ビナの飼育について」、清里校区が「一般的な問題」についてそれぞれその地域の経験、指導理論を開陳した。

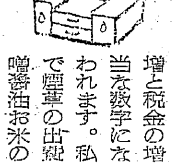
新生活運動とは違う

西川氏は冒頭「自分達の行つている生活革命運動は二年前打出した鳩山前首相のいう新生活運動とは根本的に違う。鳩山内閣の新生活運動は、資本家の利益に奉仕する保守政治家の行う国民収奪のための貧困を合理化させようとする耐乏生活論である。つまり貧乏を我慢しましよう運動である。わが三鉱労組の行つている生活革命は封建的資本主義的な虚栄と無駄を排除して、質的に生活を高める運動で根本には保守政治をやめさせ勤労者の政治を作り上げるところにある」と前置きして、具体的に集会の時間厳守、九時以降の飲酒制限勧告等……沢山の実例を挙げて聴衆に多大の感銘を与えた

有益な市民との交流

この各種団体の報告について印象を若干拾つて見ると、ある老人の青少年の育成は多分に精神論で、聴衆の一人が「具体的にどのような成果を挙げたか」と質問があつたのにたいし「挨拶をするようになつた」とか「態度がよくなつた」とかの感想のような返答で、具体的にたとえば同地区の貧困児童にたいする援助の問題その他の問題があるようだがとかく精神運動の域に止つているとの声があつた西川氏の発表にたいしてある主婦の人は「大変立派だつたが、たとえば生活対策地域協議会で行つている種々の共済活動、その他の時々に行う貧困者援助活動など発表して欲しかつた。でもいままで市主催での会で労働者が自分の経験を堂々と発表するようになつたのは大変うれしい」と語つている。こんどどしどし組合外の会合に参加し、交流を図ることは非常に大きな影響を与えるものと見られるなおかえで町他発表団体にたいして感謝状が授与されている。

物価の値上げ



けさ配達された新聞に、味噌、醤油の値上げ通知のチラシがはさんでありました。汽車の運賃も値上げするそうです。お米も八円五十銭上げるの、解散前だから上げないのと、新聞紙上でさわがれています。お米が上がれば諸物価の上るのは今までがそうですから、こんども上がるでしょうし、すでに味噌、醤油は上りました。昨年の暮に荒尾市議会では、革新議員団の緊急動議としてバット等大衆煙草多量売出しを関係官庁へ要請する件が提案され、満場一致で議決されたと聞いておりますしかしいぜんとしてバットの行列買いがおこなわれています。が実は一箇も買うことはできません、なぜでしょうか政府は一千億税金を減らすといつていますが、私たち坑外夫の低額所得者の家庭ではなんらこの恩典には浴せず、むしろ「バット」を「いこい」に替えたことによつて、日に一箱吸うので日に二十円上がります。月に六百円の出費増となり年に七千二百円となります。昨年より続いているので全国的には国民大衆の出費増と税金の増収は相当な数学になると思われます。私の家庭で煙草の出費増と味噌醤油お米の値上げをザッと計算して見ますと約八百五十円支出増になります賃金を上げることとの困難さと比較しますと政府のサジ加減一つで私たちの台所もどうでもなるようで恐しくなりました。再度政治の大切さを認識すると同時に賃上げ闘争の重要さをヒシヒシと感じます

（四山　西原　しず）

賑つた慰安会
コールマインをどうみた

去る二十九日から三日間宮浦鉱では慰安会に「楽団コールマイン」を招いて、勝立講堂、市民会館で開催した。

各日とも入場者は満員で非常な盛況をみせていたが、九炭労のあつせんで、炭鉱文化振興会の提供だけに、在来の慰安会との対象が注目されていたが、楽団は楽団演奏舞踊、歌謡曲、漫才などバラエイショウだけに娯楽本位にみせているところは、老人などをも含めて大変面白がられていた。とくにこのあと三日に行われる新制作座の商の巣村快挙録の公演もひかえているだけに面白い対照をみせるのではないかともおもわれている。

一老人は

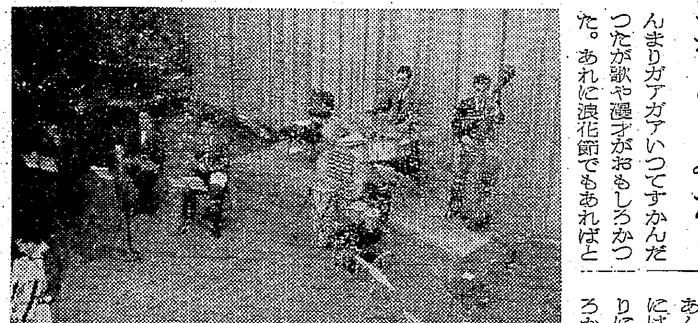
大変おもしろかつた、音楽はあんまりガアガアいつてずかんだつたが歌や漫才がおもしろかつた。あれに浪花節でもあればよいと思いました。

また子供と一緒にみにきたという主婦は

あんまりジヤズがあり、若い人にはよかつたろうが私たちは踊りに見ほれました。まあおもしろかつたですね。

行動隊員と思われる若い組合員は

みているときは面白かつたが後には何も残らなかつたそういう点では物の足らなく思つたといろんなことがいわれていたが面白かつたという点がみんなの気持だつたようだ。つぎの新制作座との比較が楽しみだという人もいる。



（写真は同楽団の演奏）

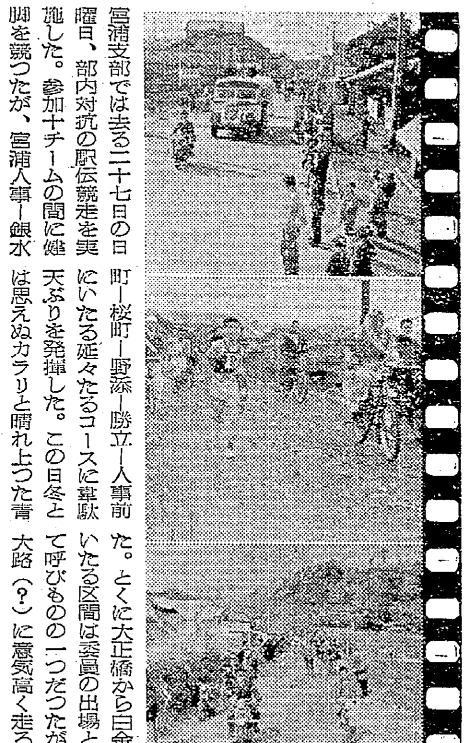
孤児への贈物
浴場の拾得衣類を

（港務）

港務支部新港地域の主婦会では三日の日曜に衣類をもつて小浜児童相談所、甘木学園の孤児たちを慰問することになつた。この慰問に持参される衣類は同地域の浴場に忘れられたものだが、この種の拾得品がいままでもちよいちよいあり、これがいままでは適当に処分されていたものだが、いくら忘れものを掲示しても取りに来る人がなく、困つていたもの主婦会では班長会議を開いて、この衣類の処分について孤児たちに慰問として贈つたらどうだろうということを話合つたのだが、これがこんど決定して、この慰問となつたもの。

忘れものの中にはネンネコなどもあるという大そうなものだが、一枚の衣類を買うのにもヤリクリ算段をしている現在、こういうことで無駄を出すのはいましめ合わなければならないという意味も多分に含まれているようである。塵もつもれば山となるの例えどおり、まだ山ほどにはなつていないが、それでも多少はたまつているこれを主婦たちが選別して、よく洗濯し、まとめて贈るようにしているが、これに自分たちが出し合つた金で果物などを買い一緒に添えてもつて行くことになつた。

宮浦駅伝スナップ



宮浦支部では去る二十七日の日曜日、部内対抗の駅伝競走を実施した。参加十チームの間に健脚を競つたが、宮浦人事－銀水－渡瀬－江ノ浦－金助坑－明治町－桜町－野添－勝立－人事前にいたる延々たるコースに韋駄天ぶりを発揮した。この日冬とは思えぬカラリと晴れ上つた青空に、汗ばむほどの暖かさだつた。とくに大正橋から白金町にいたる区間は委員の出場とあつて呼びものの一つだつたが、都大路（？）に意気高く走る委員連に声援しきり、結局このレースの区間賞は藤沢委員の頭上に輝いたが、全レース伴走も賑かに盛況裡に終了した。

【成績】一位電気、二位機械三位起業、五昇の合同チーム

レコードコンサート開く
大谷で初の試み

三川支部大谷地域分会では去る一月十三日、午後六時三十分から大谷保育園で初のレコードコンサートを催した。

これは同分会の歌う会の人たちの間で計画されたものだが、当夜は前日の雨のため道路がわるく、参加者が少くはないかと気づかわれていたにもかかわらず、男女二十名が参加した。なかには地域外の緑ガ丘からも二名の参加があるなど主催者側ではこのため非常に喜んでいた。

当分会では昨年から各種サークルが非常に活発化し、各方面で新企画を立てて研究し発展しているがこんどのコンサートもサークル活動の一環としてとりあげられたものであつた。

曲目はエデンの東、誇り高き男、イレーヌ、第三の男、知りすぎていた男（ケ、セラ、セラ）、恋ははかなく、シンフォニー、セレソローサなど全部で十九曲、冬の夜にしんみりと名曲の調にひたつた

青年婦人を中軸に活発化
地評で學習活動

荒地評では地評の青年、婦人を中心とする「学習サークル」を計画さる一月二十二日午後六時から荒尾高校定時制宿直室で第一回の学習を催した。参加は五十一名。

地評では三十一年度大会で学習サークル活動を高めようということで、青年婦人活動として学習活動を活ぱつにやろうじやないかというのが発端になつたもの。このため今年は教宣、その他の指導を一切学習サークル費に打込むという執行委員会の決定にみられるように大した力の入れかたである。だいたい昨年の九月に計画されていたものだが講師の決定が遅れていたので今日までのびのびになつていたもの。この講座は約二十回を予定されており毎週金曜日になつているが、ぜんぶの終了するのが五月一杯はかかるもよう。地評ではさらにこの後、講師またはテキストを変えて連続的な活動にしたいと計画している。この種活動は地評としては初のこころみであり、新しいケースとして注目してよかろうし、これによる成果いかんでは他地評にも大きな示唆をあたえることになるのではないかと注目されている。なお今回の講師には福岡大学助教授本吉敬治氏が決定しており、講義内容は「賃労働と資本」が決定連続講座となつている。第一回の受講生には電通（一五）市職（一〇）全逓（九）全食糧（一）市教組（一〇）全統計（四）高教組（一）となつているが、官公労の組合員が多いのも大きな注目を引いている。

タイムあて
大地評で懸賞募集

二月十日挙行の大地評駅伝大会は午前十時市役所前をスタートするが、大地評では駅伝タイム当ての懸賞募集を公募しています。

一、コースは第四回駅伝コースと同じ（五一、八キロ）
二、要領…全コースの所要時間は「チーム名と〇時間〇分〇秒」
三、必ず「官製ハガキ」を使用し所属組合名、氏名記入（一人一答）
四、宛先…大牟田市有明町四八大地評内駅伝競走実行委員会
五、締切…二月九日正午まで大地評着信有効
六、発表…駅伝終了後直ちに発表
七、賞品…一等五百円　二等四百円　三等三百円　四等二百円　五等百円（各一名）

十年史研究会
宮浦で廿五日に第一回を

宮浦支部では去る二十五日第一回の十年史研究会を参加二十余名で午後五時から組合二階の会議室で行つた。

この十年史研究会は「みいけ十年」をもとにして、十年史の講義ではなく、解説を重点にして先輩の歩いてきた道を理解して、こんごの活動の具にしようというものである。

第一回の研究会には同支部の久保田武己氏（前副組合長）を招き、氏の解説で組合結成までの動きや大牟田の情勢などが解説された。なお第二回には政治局の浦川県議を予定しており、組合結成から青年部解散までが研究対象とされている。